

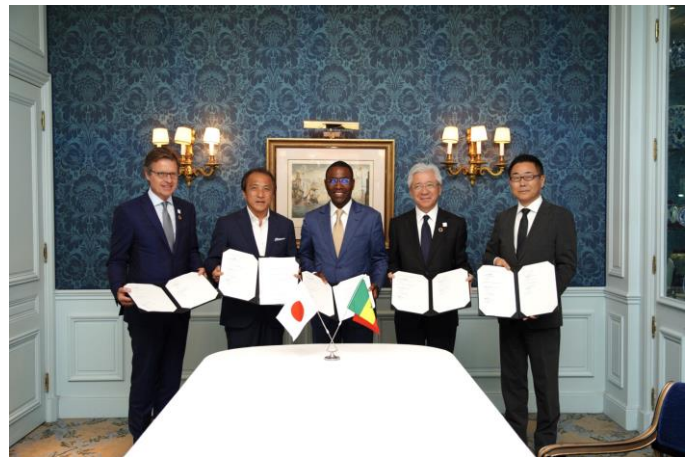
JICA、セネガル政府、豊田通商、CFAO、ヤマハ発動機が セネガル水産分野における連携協力覚書を締結

2019年8月30日

国際協力機構（JICA）は、8月30日、セネガル政府、豊田通商株式会社（豊田通商）、CFAO（豊田通商子会社）、ヤマハ発動機株式会社（ヤマハ発動機）とセネガルの水産分野における連携協力覚書を締結しました。

8月28日から30日まで横浜にて開催された第7回アフリカ開発会議（TICAD7）では、重要性を増している民間セクターの役割や官民連携推進に関する議論が交わされました。

今回の覚書は、JICAの民間連携事業としてヤマハ発動機が実施した「FRP船製造・販売事業準備調査」（2016～2018年）を契機とし、調査終了後も現地での取り組みが継続されているFRP船（※）の普及などを通じてセネガルの水産分野の振興に向けて協力していくことに合意したものです。



署名式の様子

日本ともタコの輸入などで繋がりの深いセネガルでは、零細漁民がピローグと呼ばれる小型木造船を伝統的に使用しており、操業の安全性や漁獲物の衛生管理が課題となっています。FRP船の普及により、漁業従事者の安全が守られるとともに、適切な衛生管理などによる漁獲物の品質及び価値向上が期待されます。

2018年までの調査を経て、2019年からは豊田通商／CFAOがFRP船製造のパilot工場を現地で稼働させ、ヤマハ発動機が技術的な支援を行っています。

JICAは、これまでセネガルに対して40年以上に亘り漁村振興やバリューチェーン開発、資源管理、水産政策に関わる協力を行ってきました。

現在も、水産資源の共同管理や水産政策にかかる取り組みに協力しており、今後も零細漁業を含む水産分野の振興に貢献していきます。

また、途上国の課題解決に向けて、民間セクターとの連携を引き続き促進していきます。

（※）ガラス繊維強化プラスチック（FRP: Fiber Reinforced Plastics）を用いて作られた船。耐久性が高く、軽量であることが特徴。